

<株式会社エフエム東京 第349回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成20年5月13日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名
◇出席委員（6名）

子安美知子	委員長	青池慎一	副委員長
渡辺貞夫	委員	内館牧子	委員
香山リカ	委員	横森美奈子	委員

◇欠席委員（1名）

内木文英	委員
------	----

4. 議題

- (1) 最近の活動について
- (2) 番組試聴：「八代英輝のクロノス」
2008年4月9日（水）6:00～8:30 放送分

<試聴時間：約20分>

≪議事内容≫

議題1：最近の活動について

◎アースデー・コンサート開催

今年19回目を迎えた「アースデー・コンサート」を4月22日（火）に開催致しました。

今年のアースデー・コンサートは、「武道館から森を作ろう！」をテーマに、チケット購入代金から1ドルをアフリカの植林活動に寄付することで、来場者ひとりひとりの1本の木がアフリカの大地に植えられ育つという、解りやすく

実感できる具体的な活動を実現しました。最終的に、会場での募金なども含め約170万円をグリーンベルト運動に寄付することが出来ました。

ライブは、7,053人の観客を魅了し、最後にはボニー・ピンク、絢香、ダニエル・パウターの3組のコラボレーションにより「What A Wonderful World」を披露。世界の若者たちにアースコンシャスのメッセージを伝えました。

この模様は2時間の特別番組としてJFN全国38局ネットで生放送したほか、世界27の国と地域・66の放送局に向けた放送も行いました。

特に今回は、アースコンシャスの趣旨に賛同し、TOKYO FMからの呼びかけに応じた中国国営放送・北京電台のDJとスタッフが来日し、自ら武道館から中国各地・26局の放送局を通じて、コンサートの模様を放送致しました。

昨今、食品問題などを含めて日中関係にはギクシャクしたものがあり、また、中国の環境汚染については国際的にも問題視する声があがっています。中国国内でも環境への問題意識が語られ始めたものの、その意識は今後もっともっと大きな高まりを見せていく必要があります。そうした中、TOKYO FMは日本のアースデーコンサートの意義を中国の放送局が自ら中国各地へ放送することに大きな意味があると判断し、中国放送局への積極的な働きかけを行い同意を得たものです。中国の国営放送が日本のイベントを自国へ生放送するのは異例のことであり、意義ある放送となったと考えております。

◎「MUSIC FLAG」が第45回ギャラクシー賞・ラジオ部門に入賞

毎週日曜15:00-15:55放送「ASAHI SUPER DRY MUSIC FLAG」が、第45回ギャラクシー賞・ラジオ部門に入賞致しました。

本番組は、毎週1組のアーティストをピックアップし、そのアーティストへのロングインタビューから、その楽曲が生まれた心理的背景を追っていく番組です。更にナビゲーターには、そのアーティストをリスペクトする別のアーティストが担当。2人のアーティストが“音楽”を前に交歓するという新しい形式を取っています。

受賞作品は、竹内まりやがニューアルバムを制作していく中で、彼女の世界から浮かび上がった1つのイメージが、様々な影響を受け、膨らみ、縮み、消えたり、合体したりして“音楽”として結実するまでに、どのようなストーリ

一が存在しているのかを追った回で、自身も竹内まりやのファンであるという歌手・椎名林檎が、そんな彼女の音楽世界の实像に迫った内容です。

なお、6月3日（火）ギャラクシー賞贈賞式において、ラジオ部門入賞8作品の中から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が発表されます。

議題2：番組試聴

【番組名】「八代英輝のクロノス」

【放送日時】2008年4月9日（水）6:00～8:30放送

【番組概要】

クロノスとは「時の神」の意。この番組では、リスナーの朝の貴重な時間を有意義なものにするために、八代英輝がその裁判官出身の国際弁護士という経歴を活かして、豊富な専門知識を背景に持ち、日々大きく変動する現代の最新ニュースを独自の視点で、分かりやすく、そして時には視点を変えて紹介していきます。

NEWSを“自分の事として考える”ことが必要な時代。社会、政治、経済、医療、福祉まで、“リスナーの目線”に視点を据えて物事の事実や側面を聞き出し、聴く人の生活のヒント、人生の羅針盤となるようアシストしていきます。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 今回の試聴の回は、八代さんの専門分野に関する話題だったが、専門分野以外の社会問題について解説・コメントしなければならない時に、どのような発言をするのかが注目される部分だと思う。
- 深刻な話題について話している時にBGMがなくてもよいのではないか。朝から殺人事件の話はあまり聴きたくないのではないかと感じた。
- 番組を聴いてみて、八代さんの番組に対するやる気、モチベーションの高さをとても感じられた。言いたいことをたくさん持っている方だということがよくわかったので、期待がもてるのではないかと思う。
- 番組の方向性は素晴らしく、役に立ついい番組だと思う。ただ、専門家としての意見がもとめられる時と、その人個人の感想が求められる場合の両方があり、難しい側面を含んでいる。彼の人柄、やる気は素晴らしいが、法律分野以外のことについては、それぞれの専門分野の人にきいたり、番組記者が取材したりということでもよいのではないか。全ての分野について、八代さんに語らせてしまってよいのか、という疑問は感じた。
- 八代さんは話もうまいし、温かいし、誠実な感じがしてよいと思った。一方で、ラジオでニュース番組をやることの難しさも感じた。TVのようにフリップや映像を使って解説したりということができないので、八代さんの流暢な話し方が、流暢すぎて逆に一般聴衆にはわかりにくい面もあると思った。中田美香アナが、合間に合いの手を入れて話をわかりやすくするなど、アシスタントとしての役割をもう少しきちんと話した方がよいと思った。
また、ニュース解説の結論のまとめ方にはつきり言ってくれないもどかしさを感じた。母子殺害事件の判決に対する解説の際に、「処罰感情、応報感情」という言葉もあり、一步踏み込んだ話になるかとも思ったが「よく考える必要がある」という一般的なまとめで終わってしまった。非正規雇用の問題でも「くさらずにがんばりましょう」では、物足りない。何か意見を言うと言われてしまうという時代のせいなのかもしれないが、もう少しまとめ

方に工夫が欲しいと思った。

- 八代さんのラジオに対するやる気が番組を聴いてよく伝わってきて、彼を起用したことに納得できた。母子殺害事件、非正規雇用の問題、ともに広く世の中で報じられている出来事について、改めて朝の時間に、こういう見方を与えてくれるのはいいことだと思う。ただ、処罰感情、応報感情という言葉が出てきた時には、もう少し何か踏み込んでくれるのかなと思った。しかし、言いたいところを、あえて抽象的な言葉に留めたのかなという風にも感じた。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「Heart Sharing」
5月25日（日） 6：00～8：30放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は6月10日（火）に開催することを決めた。

以上